対馬丸記念館と、遺族・サポーターを結ぶ、ふれあいの情報誌

対馬丸 通信

Tsushima maru press

発　行：（財）対馬丸記念会
発行人：髙良　政勝
編　集：対馬丸記念会事務局

平成 24 年 3 月 25 日発行　第 24 号

県補助金の実現と国庫補助金の増額

懸案であった対馬丸記念会への県補助が実現する予定です。

仲井眞弘多知事は、平成二四年二月二四日に開かれた県議会において、公明党・県民会議に所属する上原章議員の代表質問に対し、「平成二四年度当初予算案において、来館促進支援事業費七七〇万円を計上し、入館者の増加に向けた仕組みづくりを支援してまいります。」と答弁されました。

平成二三年六月定例県議会に「対馬丸記念館に係る管理運営費の補助に関する陳情」を提出し、同陳情は九月定例県議会において全会一致で採択をされました。これを受けて新年度予算案として計上されたものです。

これまで、県議会各会派・全議員が一致して、全国で唯一の子供の平和記念館である対馬丸記念館に御理解を頂き、予算計上を支援頂きました。

改めて、深甚なる感謝の意を表するものであります。

何よりも、陳情活動を通して、当館の活動について県議会はもとより、多くの県民の皆様の御理解が深まったことは、今後の当館運営に大いに資するものであります。

ただ、大きく寄附に頼って記念館運営を続けてきたが、篤志家の寄附金が激減しているため、管理運営費が赤字であります。館存続のために、県には管理運営費の補助をお願いしましたが、次年度は、事業費補助となっております。当会の運営状況について十分に御理解を頂いて、より柔軟的、効果的な予算運用が可能になるよう願うものです。

また、昨年は、参議院決算委員会において対馬丸記念館への支援について、取り上げられました。そして、次年度、内閣府においては、事業費として国庫補助金四〇〇万円を増額する予定になっております。

この様に次年度は、事業費ではありますが、県及び国において当会への補助金千，百七〇万円を増額する予定です。

当館は、平成十六年に開館し、多くの皆様の御協力を頂いて、運営に努力してきました。今後は待ちの姿勢から、学校等との連携をより密にして、アクティブに活動し、平和発信に一層努める責務があるものと考えております。

仲井眞知事 記念館視察

前号の新聞報道転載でお伝えしました、仲井眞弘多沖縄県知事が対馬丸記念館を視察で訪れた際の写真を掲載致します。

熱心に遺影や遺品をご覧になりました

小桜の塔もご案内致しました

来館記帳

記念館の概要を説明いたしました

語り部交流

水俣市にある「水俣病資料館」が、県外における語り部活動として対馬丸記念館において講演会を実施いたしました。もう一つの目的は記念館の生存者（語り部）の皆さんとの交流で、終了後双方が貴重な意見を交わしました。

水俣被害継ぐ一助に

語り部の会7人、沖縄戦体験者と交流

沖縄戦体験者と交流し、米軍基地問題に触れるため、熊本県の水俣市立水俣病資料館「語り部の会」の緒方正実副会長(54)ら7人が28日、2泊3日の日程で来県した。語り部の高齢化など同じ課題を抱え、歴史の教訓をどう次代に受け継ぐか意見を交わす。多くの犠牲者を出した「国策の誤り」を共通項に、メンバーは「失敗を二度と繰り返してはいけない。沖縄と水俣は手を取り合っていける」と見据える。

対馬丸記念館関係者と意見交換した水俣病資料館の語り部たち。（左から）川本愛一郎さん、永本賢二さん、吉永理巳子さん。前田恵美子さん（手前）、緒方正実さん（前田さんの後方）＝那覇市若狭・対馬丸記念館

高齢化など課題共通

語り部の会は平均年齢70歳超の患者や家族計13人で構成するが、高齢化や病状悪化などで、講話が難しくなった人もいる。小児性水俣病患者で、視野狭窄や運動障害などがある緒方さんは「今後、自分たちはどう活動していくか。そのヒントを得るためにも、沖縄の皆さんとの交流は念願だった」と来県の狙いを話す。

28日は那覇市の対馬丸記念館を訪れ、生存者や遺族と意見交換。補償の有無をめぐる人間関係への影響や、水俣病の原因企業のチッソが今も地域の安定した就職口となっている現実などから、症状があっても語らない人が多い実態などが提起された。一方、対馬丸記念館側は、戦争体験のない人でも受講できる語り部養成講座が開かれたことなどを報告した。

語り部の会一行は滞在中、ひめゆの平和祈念資料館（糸満市）や米軍普天間飛行場に近い佐喜眞美術館（宜野湾市）も訪れる。緒方さんは、基地の占拠が続く沖縄の歴史に触れ「沖縄は国策のために、まさに現在進行形で戦争が続いていると思う。国策の失敗を押しつけられた意味で沖縄と水俣はつながっていると、強く実感した」。対馬丸記念館の高良政勝館長は「今後も交流を続け、歴史の事実をどうつないでいくか、お互いに知恵を出し合っていきたい」と話した。

救済運動の父「誇り」

水俣病資料館の語り部、川本愛一郎さん(83)が対馬丸記念館で講演し、被害者運動の先頭に立ち、13年前に肝臓がんで亡くなった父輝夫さん（享年67）の生涯を語った。

水俣病は原因物質のメチル水銀を不知火海（八代海）に垂れ流したチッソが、排水と水俣病の関連を早期に認めなかったことで被害が拡大。愛一郎さんは水俣病は病気ではなく「憲法の生存権と幸福追求権が不条理に奪われた、無差別大量殺傷事件」と強調し、黙認して対策を怠った国、県、水俣市を「共犯」と語った。沿岸住民の一斉健康調査が行われていないことなども批判。「流産が多かった。表に出てこない子どもたちの被害もたくさんあった」と訴えた。

輝夫さんは自身も水俣病に苦しみながら、患者の掘り起こしを続け、チッソ本社前に1年9カ月にわたって座り込むなど責任追及と補償交渉に駆け回った。「過激派患者」とレッテルを貼られ、放火未遂を含む多くの嫌がらせや3回の逮捕歴など「権力の弾圧」を受けたが、徹底して弱い者に味方した。そんな父の生き方を誇る愛一郎さんは「人間の尊厳が奪われたことに対して、相手がどんなに強大な権力者であっても声を上げていくことが大事だ」と力を込めた。

29日は午後2時から、宜野湾市の佐喜眞美術館で、祖父母と両親が水俣病患者の吉永理巳子さん(60)が講演する。

対馬丸記念館 川本さん講演

平成24年1月29日　沖縄タイムスより

胸に刻む対馬丸 平和の決意新た

でいご娘、記念館で公演

学童疎開船「対馬丸」の戦禍で祖父と義兄を亡くした4姉妹の沖縄民謡グループ「でいご娘」が3日、那覇市若狭の対馬丸記念館で公演した。

地域住民ら120人が詰め掛け、口ずさんだり、手拍子をしたりしながら聞き入った。

4人は、デビュー曲「艦砲ぬ喰ぇぬくさー」を作詞・作曲した父・比嘉恒敏さんの思い出を振り返りながら、民謡など10曲を披露した。

長女の島袋艶子さん(64)は「身内が対馬丸で犠牲になっていることもあり、いつもと違う感動があった。父の遺言である『艦砲―』をずっと歌い続けていく」と決意を新たにした。

公演は、でいご娘が対馬丸関係者であることを新聞報道で知った対馬丸記念会の高良政勝会長らが依頼し、実現した。

平和への思いを歌に込める島袋艶子さん(左から2人目)ら「でいご娘」のメンバー＝3日、那覇市若狭・対馬丸記念館

平成24年3月4日　沖縄タイムスより（記事のみ）カラー写真は記念館撮影

ちゃーがんじゅー講座　二題

平成二十三年度は、ちゃーがんじゅー講座を三講座開講しましたが、うち二講座を下半期に実施致しました。

12月15日に薬剤師の宮城敦子さんをお迎えして**「薬の話ありんくりん」**と題して、薬の正しい使い方や、実際にあった間違った使い方などの実例を講話していただきました。

3月2日には対馬丸の遺族にあたる、島袋艶子さんご姉妹のグループ、でいご娘による―父の遺作を唄い語り継ぐ―**「艦砲の喰ぇぬくさーに込めた想い」**と題した講座を開催しました。沖縄戦を唄った島唄の名作「艦砲の喰ぇぬくさー」他の島唄を歌う合間に、お父様の思い出と、この唄を通して感じた、お父様の平和への想いを講話していただきました。

視察

□1月13日

昨年の仲井眞知事の視察（別掲の写真参照）に続いて与世田兼稔副知事が対馬丸記念館を視察しました。

□1月25日

厚生労働省社会援護局岡田裕之課長補佐、亀井真佐彦資料専門官

□2月17日

財務省主計局 厚生労働総括係 岩瀬伸治係長、厚生労働第五係 柳川淳一調査主任、厚生労働第三係 堀智史 財務事務官

トピックス

□1月28日

水俣市立水俣病資料館語り部の会主催・対馬丸記念館共催による、「水俣病を伝える講演会」が企画展示室にて開催されました。語り部の川本愛一郎さんは、沖縄には戦後六七年経った今でも米軍基地があり、命どぅ宝の言葉が生きており、水俣にはチッソ工場と水俣病に対する偏見があることから、共に生命の大切さを次世代に語り続けるべきであるという講話を、詰めかけた聴衆に熱心に語りかけました。

その後水俣市立水俣病資料館語り部と当館語り部による、意見交換会を行いました。（別掲新聞記事参照）

イベント

□11月18日～30日

第16回特別展「テレジン収容所にいた小さな画家たちパート2」

好評だったパート1に引き続きパート2を開催しました。

□12月15日

第19回ちゃーがんじゅう講座「薬の話ありんくりん」を薬剤師の宮城敦子さんをお迎えして開講しました。（別掲記事参照）

□3月2日

第20回ちゃーがんじゅう講座「艦砲の喰ぇぬくさーに込めた想い」開講（別掲記事参照）

ご寄附

□女性歯科医師の会

1月15日ホテルパームロイヤルNAHAで女性歯科医師の会（与那原エツ子会長）の例会が開催され、高良政勝会長が「水に流せない過去」と題して講演を行いました。講演後の懇親会で会員の皆様が持ち寄ったお宝のオークションが開かれ、その収益金15万円全額が高良会長に手渡されました。

□沖縄歯科インプラント研究会

沖縄歯科インプラント研究会（新崎博文会長）では1月20日、たから歯科3F研修室で勉強会を開催、引き続いて行った新年会において、会員寄贈の品々がオークションにかけられ、その収益金12万5千円円全額が対馬丸記念会に寄附されました。

□11月27日～3月17日（日付順）

柳澤千恵子、亀島淳一、ガジャンビラ会、島元智、高良美寿代、松田政勝、幸地秀子、東風平朝正、真栄城修、沖縄に平和を学ぶ旅、奥村満里子、外間邦子、高良政勝、渡口眞邦、宮城都志子、スラッシャー順子、大森節子、米岡法輪、さき山歯科、内間まり子、又吉キク、安次嶺喜伸、甲斐美智子、石原みどり、平林正好、宗教法人阿含宗、泊先覚顕彰会、瑞慶山良和。以上の方々からご寄付を頂戴いたしました。心よりお礼申し上げます。

訃報

□3月1日

対馬丸記念館語り部で生存者の儀間真勝さんがご逝去されました。

これまで数多くの語り部活動や証言映像制作にご協力下さった儀間さんに対して、高良政勝会長は「儀間先生、長いことお疲れ様でした。そしてありがとうございました。先生は対馬丸のことを語るとき、いつも儀間少年に戻り、子ども達の目線で戦争のこと、対馬丸のことを語っていらっしゃいました。現役時代の学校教育、そして対馬丸語り部としての平和教育など、教育者としての先生にはもうお会いできませんが、先生がまいた種はいたるところに咲き誇ることでしょう。これまで語ってこられた、たくさんのことを私たちが語り伝えてまいりますので、今はただ安らかにお休みください。」と弔辞をおくり儀間先生を悼みました。（写真は鳩山総理〈当時〉に証言をする儀間真勝さん。右側、中央は高良館長）写真提供　石塚由紀子